

# 岐阜市立女子短期大学将来構想委員会 答申（骨子案）の概要

## 1. 将来構想策定に向けた基本的な考え方

- **岐阜市が市立大学を持つ意義**を、人材育成、地域活性化、課題解決など多面的観点から検討。
- **地域に貢献する公立大学**の在り方という大局的な見地から提言。

## 2. 大学・地域を巡る現状

- 岐女短では、データサイエンス教育の推進等の改革を進めてきたが、**入学定員を満たせていない**現状。
- 岐阜県の高校生の**県内進学率は約22%と低く**、これは、**岐阜県で学力中間層の進学先が非常に限られている**ことが影響している可能性。

## 3. 将来構想の各論点

### (1) 別学・共学のあり方

- **ジェンダー平等の浸透**、女性の大学進学率上昇を背景に、女子短大のニーズはかなり弱くなっている。
- 女子大には、女性がリーダー経験を積みやすいなどの長所もあるが、公立大学が別学を選択する意義を納税者に説明困難ではないか設置者が十分確認すべき。
- 学生の教育を考えた際、LGBTを含めて多様な学生を受け入れ、**男女や国籍などの背景にとらわれない多様な価値観に触れながら共に学び合う環境**が実現するよう、**共学化することが望ましい**。

### (2) 4年制ニーズへの対応

- 社会の高度化に対応した能力育成を行いつつ専門分野の能力を高めることは、2年では困難。
- **公立4年制大学の設置**は、**学力中間層の新たな進学先**をつくることのできる可能性が高い。岐阜の高校卒業生が**地元で思う存分学ぶ場**が、公立大学としても充実するとよい。

### (3) 提供する学問分野のあり方

- 少子化が進む中、**地域の発展の拠点となる大学**が必要。人材育成に加え、研究機能も持った大学が、地域課題の解決につながる。
- 岐阜においても全国と同様、**ファミリービジネスの後継者育成や地域産業を支えるリーダーとなる人材育成の課題**を抱えている。
- 高校生の中には、データを活用・分析して起業につなげるといった分野の重要性が今後高くなっていくという認識が出始めている。
- **地域経済活性化**という軸で、**経営・起業に関する専門分野をデータ活用・分析に関するスキルを交えながら学ぶコース**を置くことが、新たな分野の方向性として考えられる。
- 岐女短の専門分野は、**栄養と建築を始め、衣食住から豊かな生活を目指すもの**であり、食への関心や高齢化など**現代的な課題への対応を通じて社会の変革に更なる貢献**ができる可能性がある。
- また、国際コミュニケーションについては、グローバル社会の中で、専門分野にかかわらず学びのベースとなるものである。

### (4) 地域連携・機関間連携の促進

- 自大学のコアを定めるとともに、**文理融合分野など、他大学との連携により強化**していく部分もあらかじめ検討することが有益。
- 地域の困りごとの解決を求めて産学連携するということにより、**社会に開かれた形での発展**が地方の公立大学の在り方として重要。
- 市への流入を図る観点からは、市外・県外からも人を受け入れ、岐阜市で育ててもらって市に貢献してもらおうという考え方が重要。

## 4. 今後期待される事項

- 地域課題解決に向けた**研究力の強化や、地域でのリスキリング**を担う意味でも、4年制大学開設の検討と並行して**大学院の設置についても検討**していくべき。
- 将来構想を実現していく上では、学生、市民、地域産業を担う企業関係者等の**ステークホルダーの意見**を反映することが重要。